



みらいつうしん

5月号

2025年5月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦芳子



:・★。,::・° ☆。° *:・*:・。,::・

☆みんないっしょうけんめい☆

青葉が美しい季節になりました。園庭の鯉のぼりも澄みきった青空を爽やかな風に誘われて気持ちよさそうに泳いでいます。子ども達も、登園すると、「ワ～鯉のぼりだ！」と指をさして喜んでます。中には、こいのぼりが心のよりどころになっているお子さんもいて、みんなの「元気の基」になっています。鯉のぼりの由来は、「昔、中国の黄河の急流に竜門と呼ばれる滝があり、その滝を登ろうと多くの魚が試みたものの登れたのは鯉だけで、登り切った鯉は竜になった。」という故事が元になっています。力強さや生命力に肖って、日本では、特に、男の子が、様々な困難に打ち勝って、大成する立身出世の象徴として端午の節句に飾られます。現在では、男女関係なく、「子どもの日」として成長を祝い、竜は天の神様と伝わっていることから、神様が皆のところに来て貰えるための目印として飾られているとも言われています。また、兜も、どんな災難や困難から身を守れるように、強い象徴として飾られます。みらいこども園の子ども達も天の神様に見守られ、これからも逞しく育てて欲しいと願います。

さて、入園・進級してから、1ヶ月余りが経ちました。新入園児は、「ママー！」「お家に帰りたい」と泣いて自分の思いを表現するお子さんや上のお子さんを探して安堵を求めるお子さん、安心できる保育者にしがみついて何とか自分の気持ちを紛らわすお子さんなど、タイプは様々ですが、自分のよりどころを必死に探している光景が見られました。その一方、いろいろな場所や進級児の遊びに興味関心をもって、積極的に活動して、「楽しいね～、面白いね！」と園生活をエンジョイしているお子さんもいます。一人一人の思いは、それぞれですが、日に日に楽しみを見つけては、笑顔が増えてきました。一生懸命さがよくわかります。きっと保護者の皆様の陰のサポートがあったことと感謝いたします。お子さんも保護者の皆さんも、園生活に順応しようと良く頑張りました。

進級児も、新しい環境に戸惑うこともあります。見通す力も芽生えてきているようで、1つ大きくなった嬉しさと「失敗したらどうしよう」「うまくいかなかったらどうしよう」という新たな思いも混ざり合い、葛藤しているところも感じられます。人間形成の中で、とても大切なことですので、体験を繰り返すことで、1つ1つ解決して行ってほしいと思います。入園、進級に関係なく、この時期の子ども達が泣いたり駄々をこねたりすることは、決して悪いことではありません。一生懸命「私を見て、なんとかして」と自己表現をしているわけですので、まずは、「子どもの思いを受け止めて」を合言葉に、子ども達のペースで見守っていきましょう。職員は、まず、一人一人の特徴を日々の生活から読み取り、子どもが安心して園生活を送れるよう、工夫して教育・保育を進めています。どうぞ安心してお子様を送り出してください。

また、これからは、温度が高い日が続きます。それにより急に体調を崩す場合もありますので、着替えの洋服も通気性の良いものにしてください。また睡眠は、健康のバロメーターといわれるように、身体と心の安定にとっても影響を与えます。特に乳幼児は、脳の発達に必要ですので十分に睡眠がとれるようにしてあげてください。よろしくお願いいたします。

3月27日に新しい滑り台の使用を開始しました



滑り台解放に順番待ちの整列が！



ちょっとドキドキ

